

こもんじょ
古文書・絵図が語る御所町

令和5年11月26日(日) @御所市文化ホール
御所市教育委員会文化財課 小松 明日香

1. 御所町の構成



昭和の御所町。多くの商店が軒を連ねていました・・・。
(『奈良県立図書館ITサポートズ 奈良の今昔写真WEB』より
(<https://library.pref.nara.jp/supporter/narazeb/syashinweb.html>))

・古代より御所市域を葛上郡(かつじょうぐん/かつらぎかみのこおり)と呼称

・明治13年(1880)の郡区町村編成制により葛上郡(1町64村)の発足。御所町に「御所郡役所」を設置。

・明治22年(1889)市制・町村制により、1町13村。御所町は単独町。

御所町は御所市の中心地



・明治30年(1897)葛城市の一部を編入し南葛城郡を発足

・櫛羅村外七ヶ村組合村が合併し大正村に

・昭和33年(1958)御所市発足

御所町	単独町制
掖上村	東寺田村、柏原村、原谷村、玉手村、茅原村、南十三村、本馬村
秋津村	池之内村、室村、蛇穴村、条村、富田村
葛村	今住村、稲宿村、戸毛村、樋野村、古瀬村、朝町村、奉膳村、新田村、重阪村、内谷村
葛城村	小殿村、下茶屋村、佐田村、井戸村、南郷村、極楽寺村、高天村、北窪村、西北窪村、伏見村、朝妻村、僧堂村、鴨神村、西佐味村、東佐味村、船路村、五百家村、林村、西持田村、東持田村、栗阪村、鳥井戸村
吐田郷村	名柄村、豊田村、森脇村、宮戸村、西寺田村、多田村、東名柄村、増村、関屋村
櫛羅村外七ヶ村組合村(大正村)	櫛羅村、檜原村、鎌田村、三室村、東松本村、小林村、竹田村、西松本村



御所町周辺の遺跡や寺社

御所町の古文書

・古文書・・・差出人から受取人へ伝達されるもののうち、その効力を失った文書（狭義）。古くなった文書（広義）

・大半の古文書は江戸時代以降のもの。地域の村役人（庄屋、年寄、組頭など）の家で何かしらの意図をもって残されてきた。→その地域の歴史を知るための貴重な文化財。

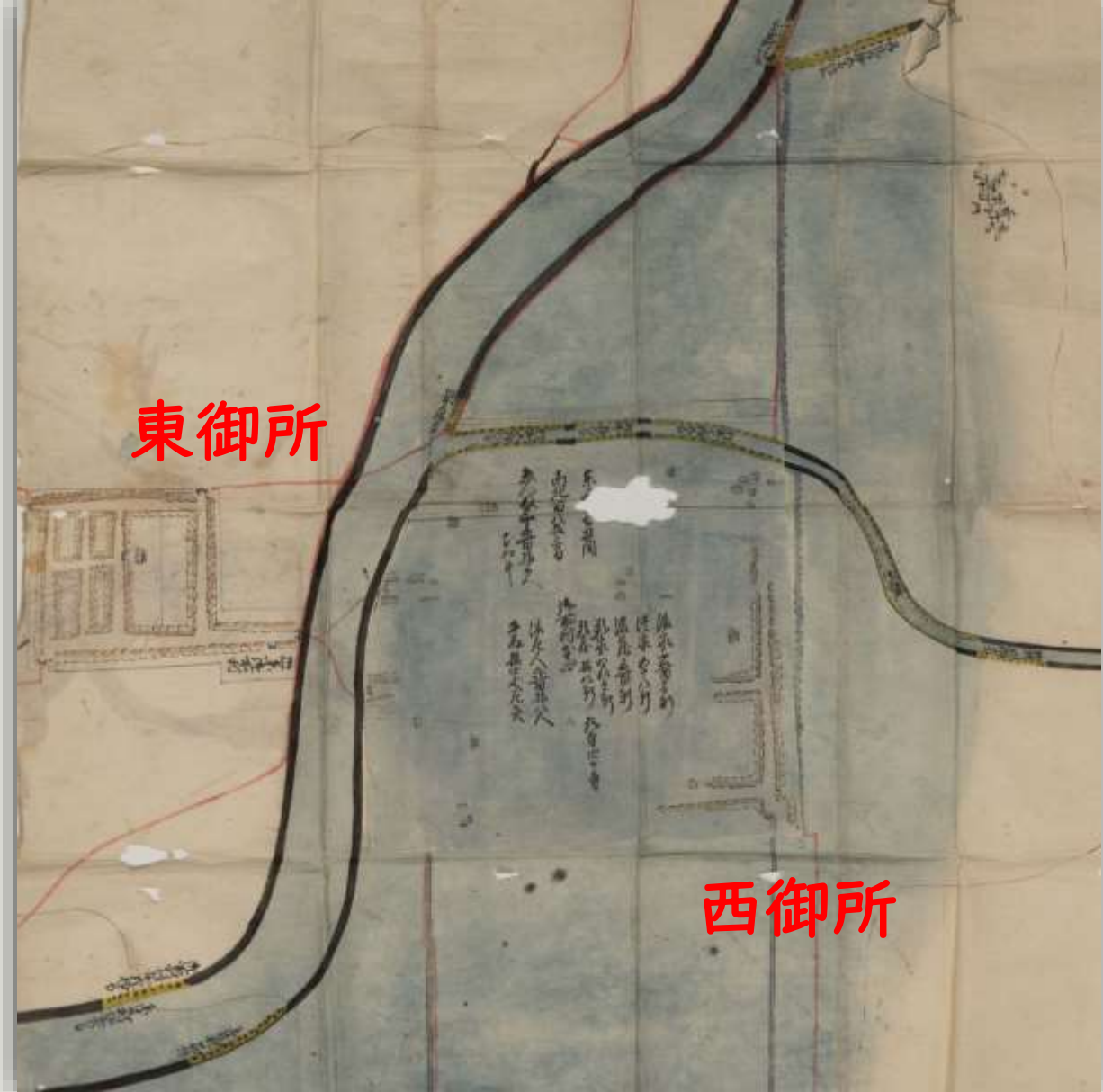
・御所町の古文書の大半は江戸時代中期以降（1700年代半ば）のもの

・御所流れ：元文5年（1740）の7月集中豪雨により葛城川の堤防が決壊。住居とともに古文書が被災



「怒濤の如く押し寄せる水に対して、人々はさながら鳥に追われる魚のように逃げまどい、溺れてしまった者、親子で抱き合いながら流されてしまった者がいたりなど、目を覆いたくなるほどの惨劇であった」

堤切ノ図乱水（観音寺蔵『御所流』より）
明治12年（1879）



被災状況を記す絵図
(御所流図 江戸時代 赤塚家文書)

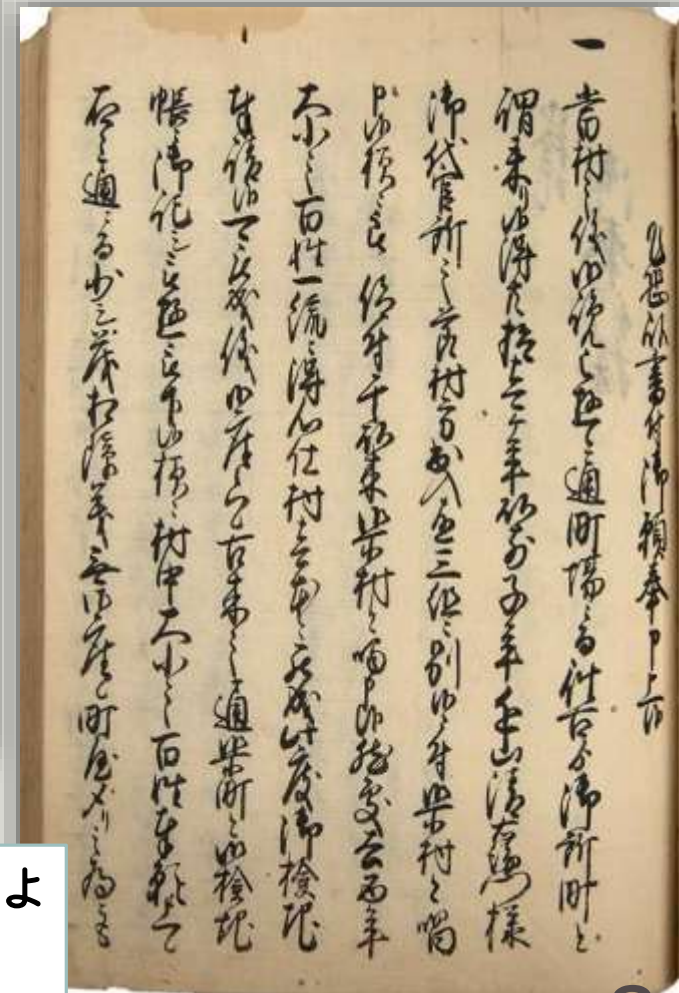
大和国葛上郡御所町 御検地用集

寛保2年(1742) 赤塚家文書

・寛保2年の検地の準備から終了までに作成された資料を時系列に従ってまとめた書物。

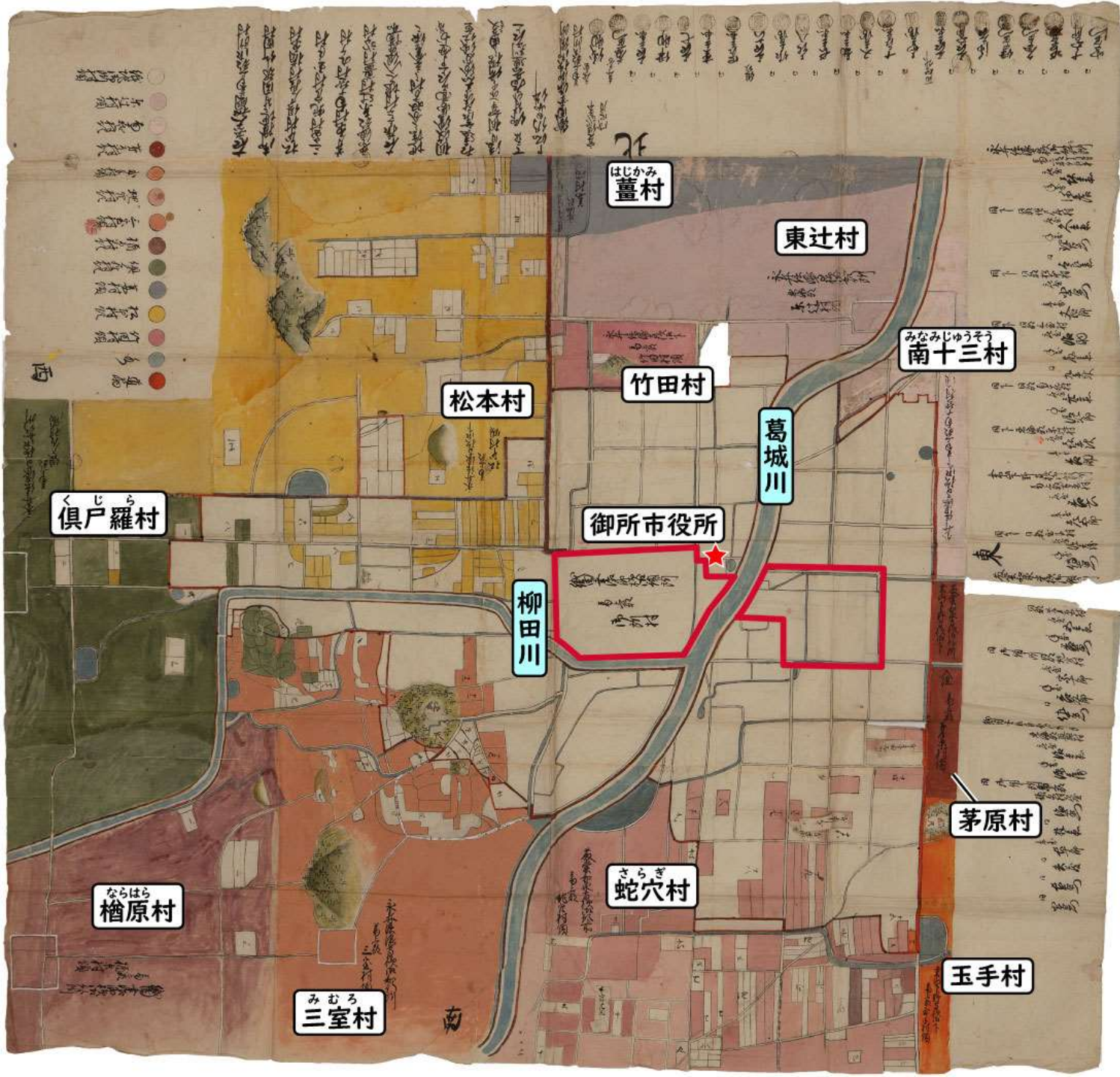
・御所町の町役人の赤塚吉兵衛によって調製された「御検地用集貼」と題する箱に納められており、町の重要書類として大切に保管。

→当時の御所町の構成が詳細に記されているので、町の成立過程を考えるための一助となる重要資料。



「乍恐以書付御願奉申上候(当村往古より御所町と謂来りにつき)」「大和国葛上郡御所町御検地用集 下巻」より▶

御所村外十一ヶ村入組田畑絵図 寛保2年(1742) 赤塚家文書



- ・色を塗っていない範囲が御所町。
時期によっては御所村と呼称。
- ・葛城川を挟んで東西両側に広がる町場(赤粹)には住民が集住
現在では西御所と東御所と呼称

御所町は**在郷町**

・郷（ごう/さと）の中にある町（＝都市）

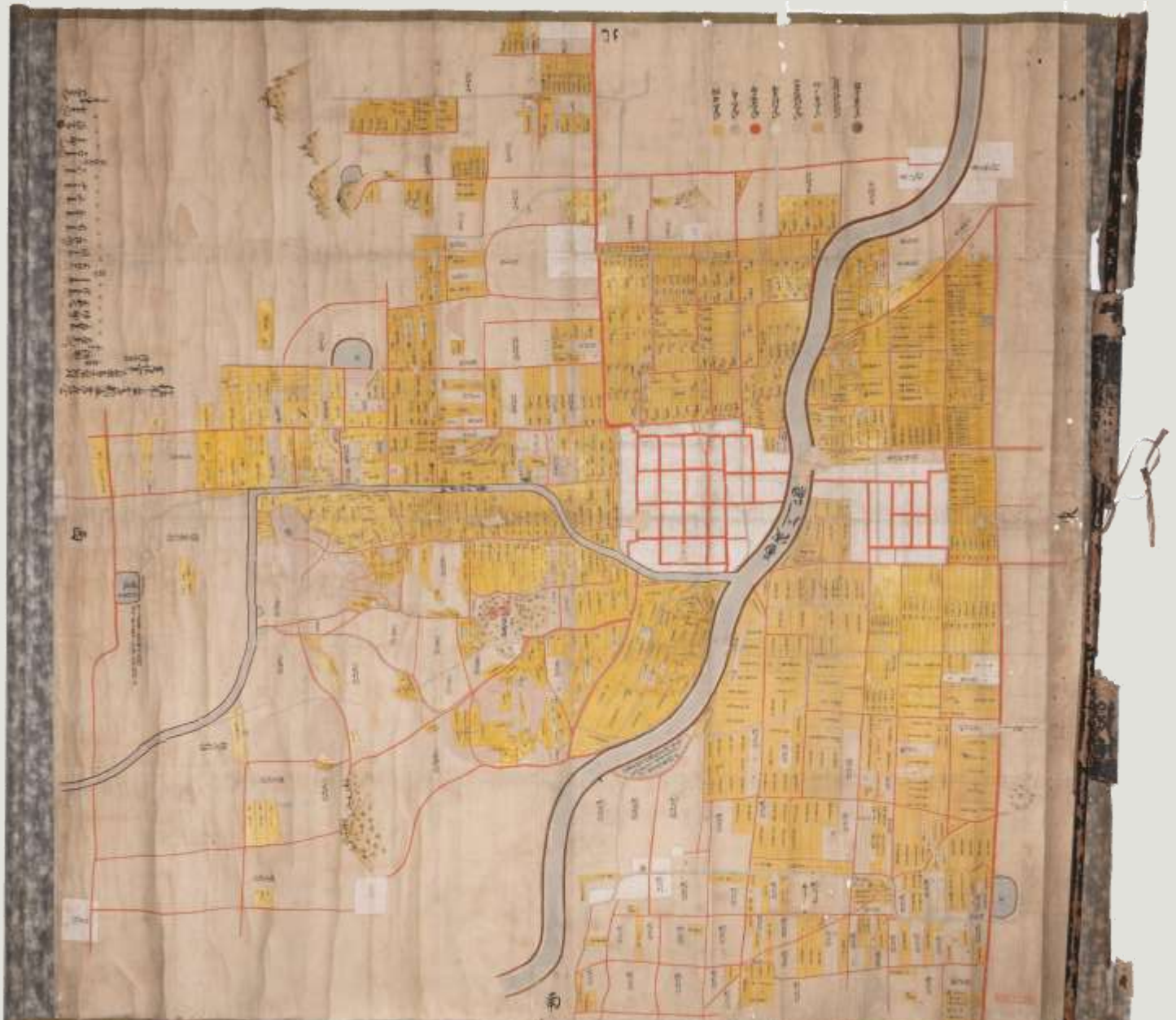
・農村地域にありながらも様々な商売が行われた都市的機能を持つ町。農民経済の拠点。

→御所町は機織り業、絞り油業、売薬業が発達

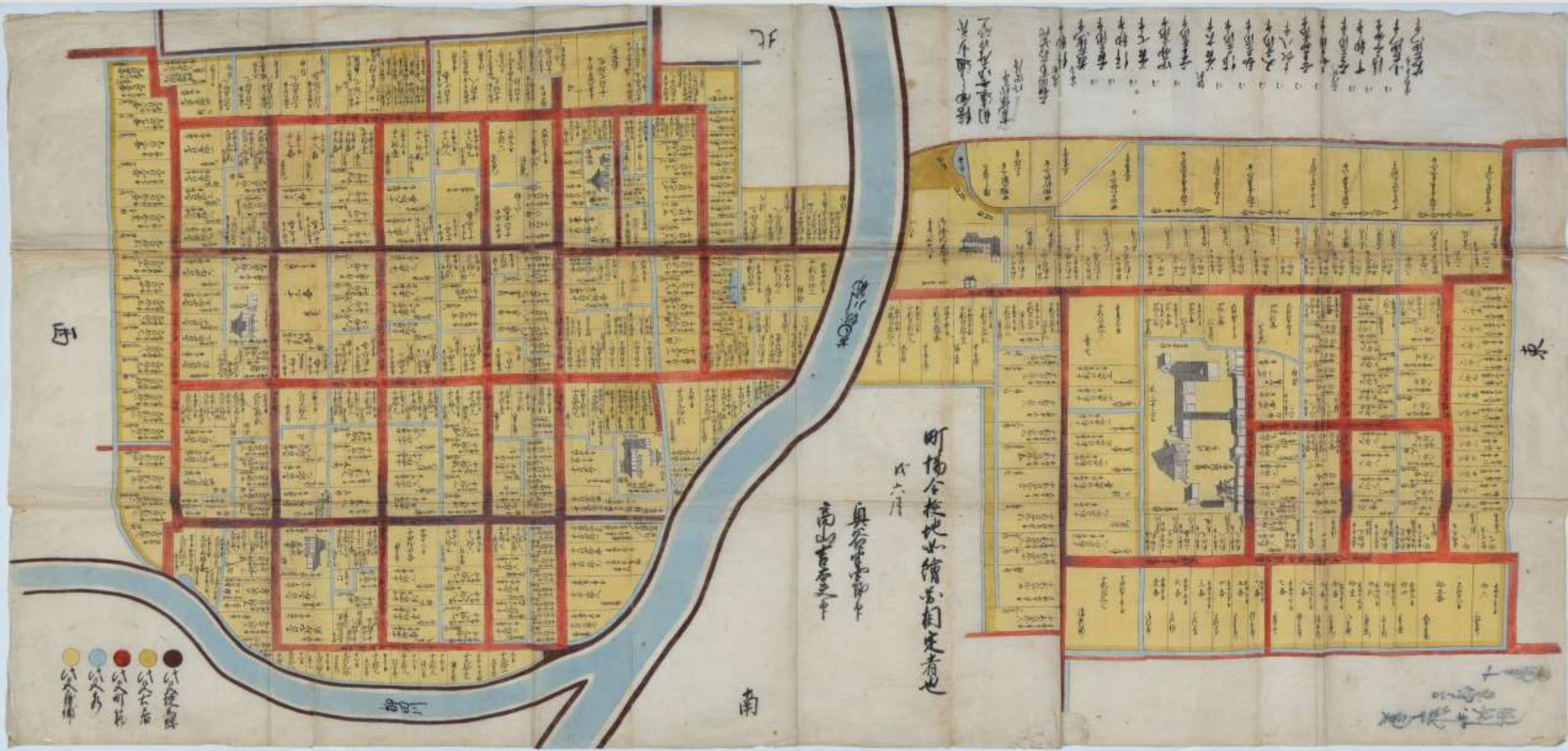
白色が住民が集住する町場、黄色が田畑

→町場の外側に田畑が広がる

＝在郷町らしい風景を示す絵図



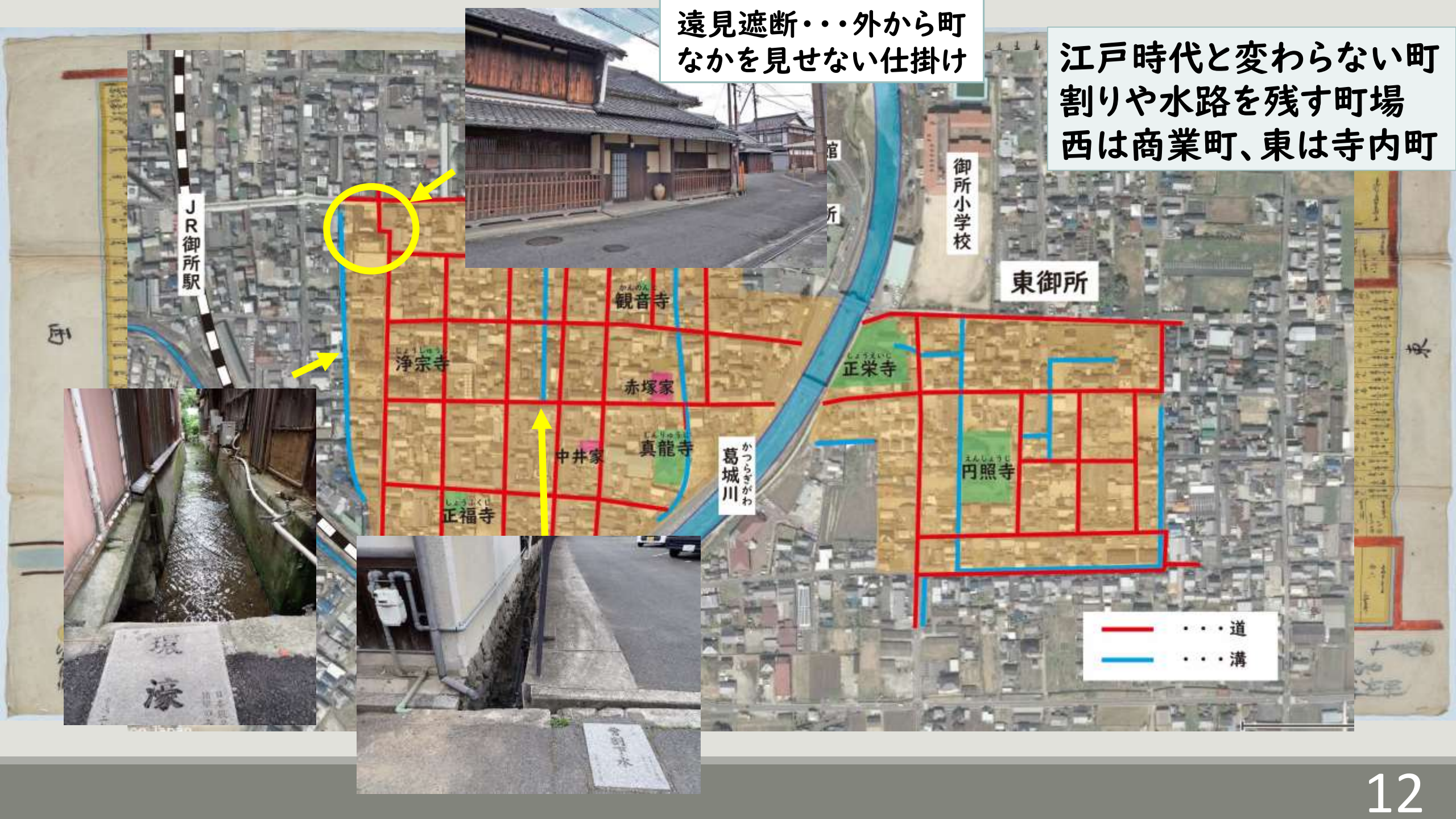
御所町町場外検地絵図 寛保2年(1742) 赤塚家文書



御所町町場検地絵図 寛保2年(1742) 赤塚家文書

遠見遮断・・・外から町なかを見せない仕掛け

江戸時代と変わらない町割りや水路を残す町場
西は商業町、東は寺内町



JR御所駅

御所小学校

東御所

観音寺

浄宗寺

赤塚家

正栄寺

中井家

真龍寺

葛城川
かつらぎがわ

円照寺

正福寺

— 道
— 溝





御所町から葛城山・金剛山を望む



県指定文化財 赤塚家住宅
推定：1750年頃



国登録文化財 中井家住宅
寛政4年(1792)



◀愛宕灯籠



秋葉灯籠▶

やまとがすり

御所町の名産 大和絣



大和絣の発明者浅田正堂



明治時代のチラシ 御所町の呉服屋 (呉服屋引札 竹田政義氏所蔵資料)



御所町で流通した紙幣 (赤塚家文書)



江戸時代の営業許可書 木綿仲間鑑札 肥仲間鑑札 (中井家文書)



配置薬 三光丸



ごしよがき 御所柿

2. 御所町の成り立ち



昭和の御所町。商店街のお祭りや映画館。
賑やかな様子がうかがえます。

(『奈良県立図書館ITサポートズ 奈良の今昔写真WEB』より
(<https://library.pref.nara.jp/supporter/narazeb/syashinweb.html>))

集落の起源

・中世的郷村・・・自然環境や地理的条件に合わせて成立した村落。

例：吐田郷、小野郷

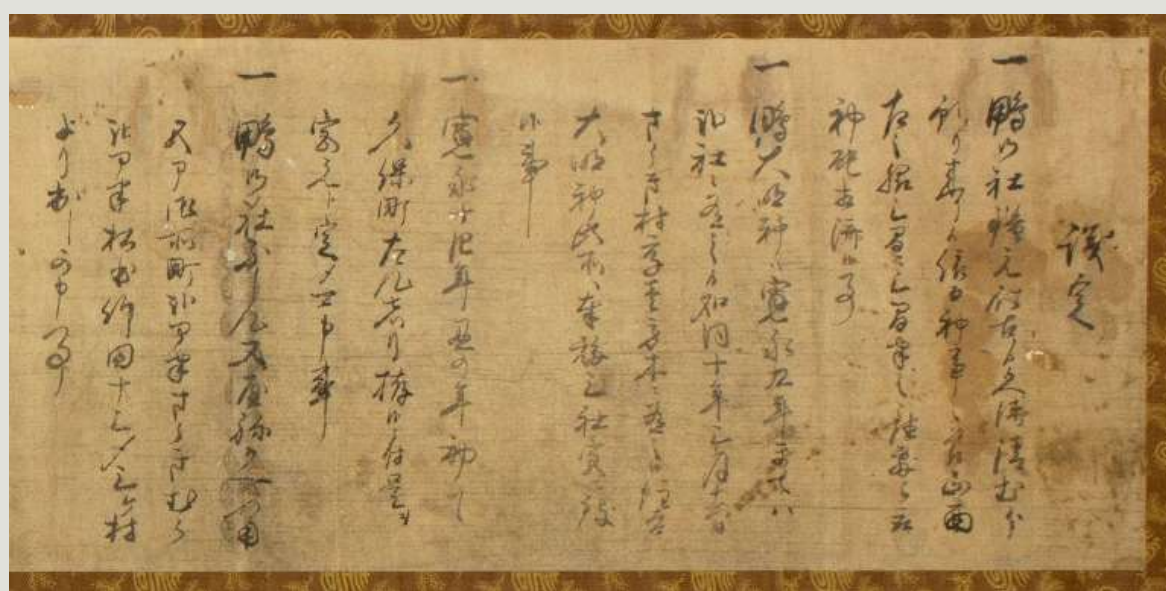
・鴨都波神社の氏子圏・・・御所町、蛇穴村、松本村、竹田村、十三村の1町4村

→集落で生まれる信仰

中世的郷村の形成を推測

・集落の形成要素

→葛城川や葛城山・金剛山麓から流れる水系。御所町を通る複数の街道。



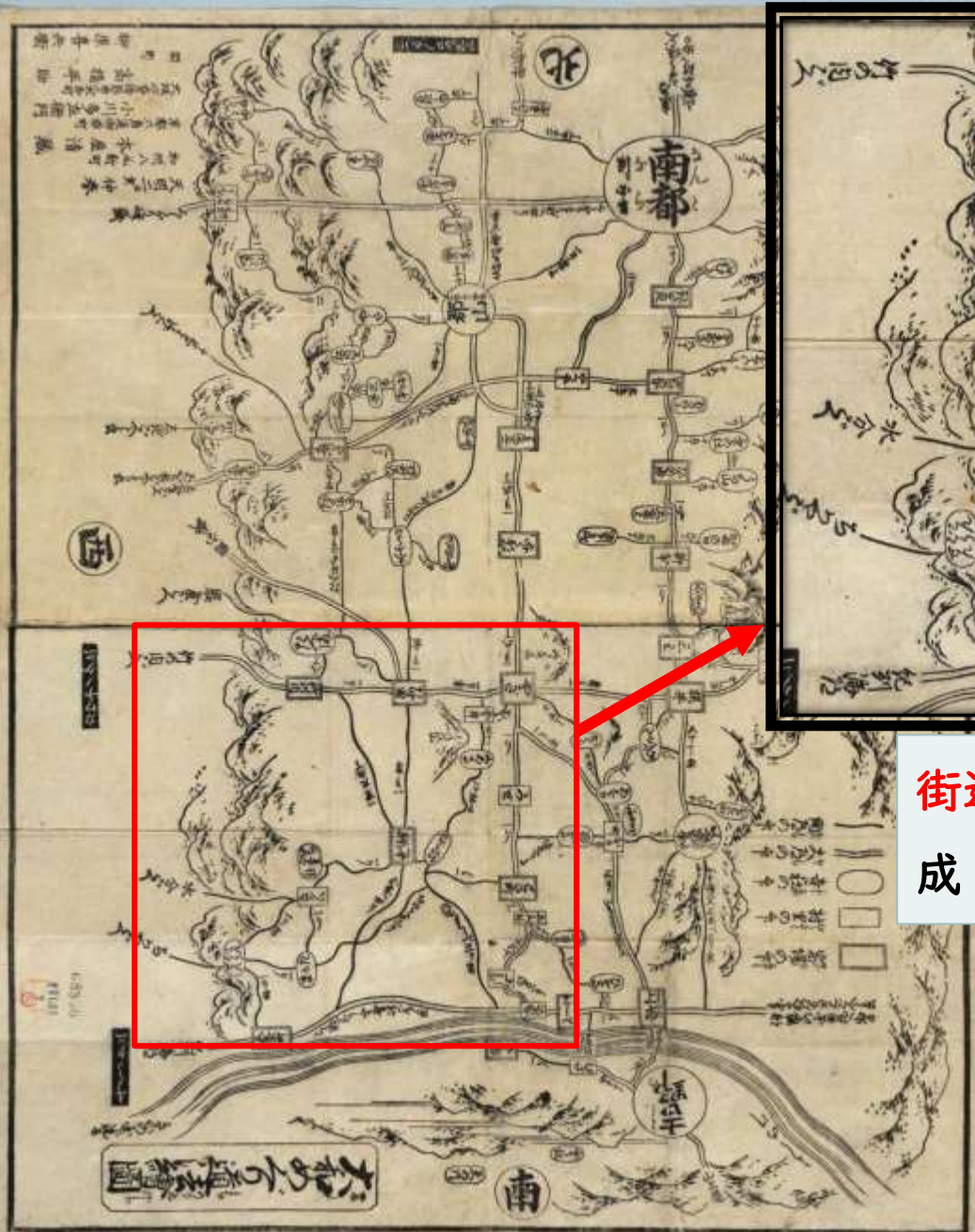
寛永年氏神古書 寛永15年(1638) 清村家文書

鴨都波神社の運営に関する氏子内での取り決め。江戸時代でも村落民を中心とする神社の維持管理体制が整っていた。

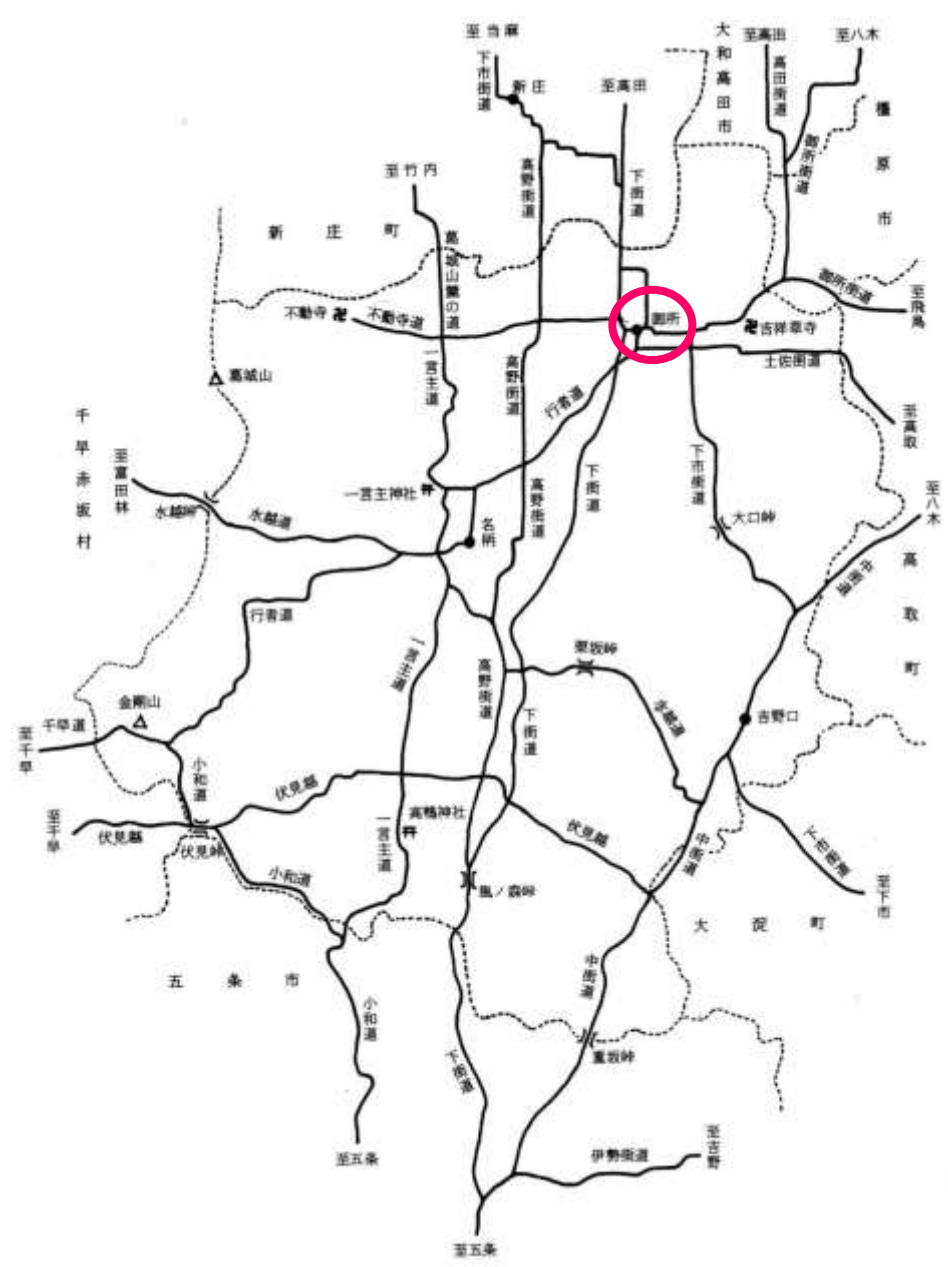


御所町を中心に金剛山・葛城山麓から流れる短小河川と堤の位置などを描いた絵図。葛城川は天井川のため、農作の際には柳田川を利用した。

金剛山・葛城山からの水系
葛城川筋絵図 江戸時代 赤塚家文書



街道に沿って町場が形成



御所市における主要街道
『いにしへの御所を尋ねて—道標編—〈御所市の古文化ガイド〉』
(御所市 1978)より

『大和めぐり道法絵図』 天明2(1782) 奈良県立図書情報館蔵

水利慣行 番水

- ・同一の水源を利用する村々間で一定の日時、順番で井手から引水する慣行
- ・奈良盆地南部では、昭和49年(1974)に吉野川分水が完成されるまで続いた

柳田川筋井手絵図 元禄4年(1691)
中井家文書

常は、横井井手を中心に上下七つの井手から、俱尸羅・三室方面へ水が流れている



番水の時計(檜原)





番水破り申儀者、横井井手端之地蔵二四尺四面之板屋祢之辻堂之候近辺雨降辻堂之屋祢雨雫落申候ハ | 番破り申筈(以下略)

ほうじ川横井上下七ツ之井手俱尸羅村方と御所町・松本村と水論出入嘸申覚え 元禄4年(1691) 中井家文書

★番破れ・・・たくさん雨が降り番水をしなくてもいい状態。雨地蔵の屋根から雫が落ちれば番破れ。

ひでりが続くと鴨下り行事・・・鴨都波神社の神主が柳田川の各井手で禊祓をし、村民がほら貝を吹き鴨都波神社の方向へ水を流した。



雨地蔵(柳田川沿い、櫛羅・檜原境界付近)

御所町に関する中世の記録

- ・中世越智郷内檜原庄内に

「御所郷 二町一段半」と記録

(「越智郷段銭算用状」(『春日神社文書』))

※文明年間(1469~87)の資料

- ・『多聞院日記』永禄12年(1569)7月18日条

「檜原御所庄ニ一向宗導(道)場始立之間、曲事旨被申届、則先年籠名、今度種々令懇望彼堂舎破却、一昨日十六日、専当二人・仕丁五人神人廿人被召下檢知畢、於自身者重而郷内ニ不可之通告文又沙汰之了、則今日辰剋出名了、云々」

→興福寺によって御所庄の一向宗(浄土真宗)道場が破却。御所庄内の一向宗道場
建立禁止の通告



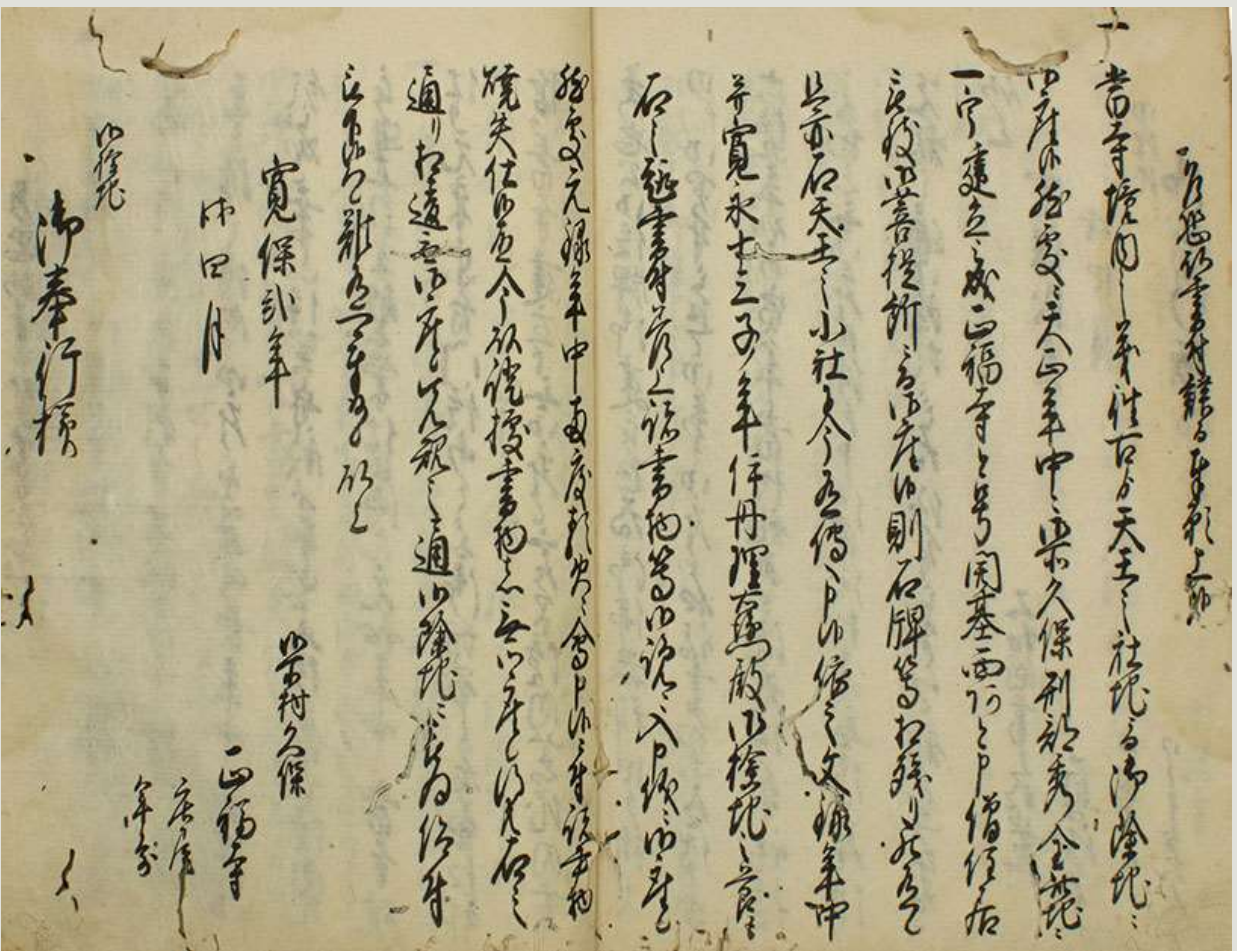
江戸時代中期の記録の『和州十五郡衆徒国民郷士記』(奈良県立図書情報館蔵)によると、国民・檜原氏の家臣として

「俱尸羅監物光資、佐味兵庫数豊、
長柄主馬薰数、**御所刑部**秀全」

→御所氏・・・越智郷内檜原庄内御所郷の領主と推測

大和国国人図
『新庄町歴史民俗資料館第四回特別展 戦乱の世をゆく大和武士』
(新庄町歴史民俗資料館 2003)より

「乍恐以書付謹而奉願上候（正福寺御除地につき）」
 『大和国葛上郡御所町御檢地用集 上卷』より



乍恐以書付謹而奉願上候
 当寺境内之義往古々天王之社地二而御除地二
 御座候、然処二天正年中二御所久保刑部秀全此地二
 一字建立被成、正福寺と号、開基西阿と申僧住居
 被致、御菩提所二而御座候、則石碑等相残り罷有候、
 且亦右天王之小社尔今有伝へ申候、依之文禄年中
 并寛永十三子ノ年伊丹理右衛門殿御檢地之節も
 右之趣書付差上、諸書物等御覧二入申儀二御座候
 然処元禄年中両度類火二会申候二付、諸書物
 焼失仕候故、今以証拠書物者無御座候得共、右之
 焼失仕候故、今以証拠書物者無御座候得共、右之
 被下候ハ、難有可奉存候、以上

寛保貳年

御所村久保

戌四月

正福寺

庄屋
 年寄

御檢地

御奉行様

・天正年中（1573～1592）に御所久保刑部秀全によって正福寺（浄土宗、現在の西久保本町）が建立。

※天正5年、東御所の正栄寺も再建。

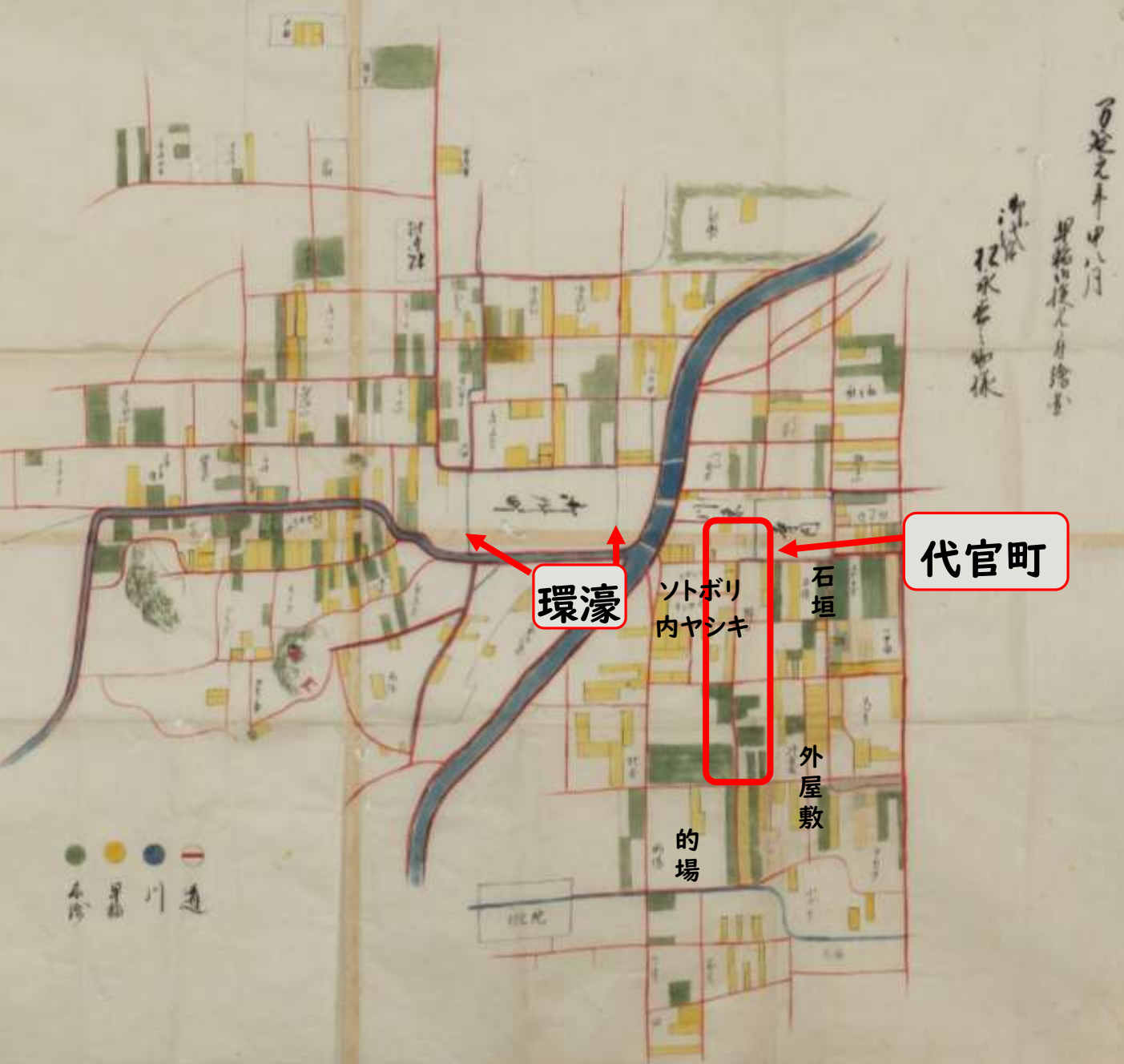
※浄土真宗禁止の影響で、一向宗道場破却のあとは浄土宗寺院が寺勢をもつ。

→御所町＝御所庄。中世以来の町場。環濠集落の西御所。

戦国時代、戦乱が乱発。農村や町場は集落を守るため、周囲に堀を巡らせて襲撃に備えた
例：橿原市今井町や大和郡山市の稗田環濠集落



正福寺本堂



江戸初頭の御所町

- ・慶長5年(1600)葛上郡に入部。御所藩を立藩し、御所町に陣屋を設置。
- ・寛永6年(1629) 御所藩廃藩。
 - ※2代目桑山貞晴が跡継ぎがないまま死亡したため
- ・葛城川東に、字名「ソトボリ」「内ヤシキ」「石垣」「外屋敷」。「代官町」という町名。
 - 円照寺を中心とする寺内町・代官町が御所藩の陣屋町として組織。葛城川西方には中世以来発達しつつあった環濠集落が城下町に一部に組み入れられた。

まとめ

●御所町に残る古文書や絵図から知れるもの

- ・江戸時代に発達した町場。在郷町。西の商業町と東の寺内町。

→多様な側面をもつ町。現在でも、古民家や町割りが良好に残っており、往時の景観を想像することができる。

●御所町の形成過程

- ・水系によって中世的郷村が形成。鴨都波神社を中心とする信仰や水利に関わる慣行。

- ・街道沿いに形成された町場。

- ・国人(大和武士・地侍)の成長。御所氏の活動。

→近世初頭の御所藩立藩には中世時期の町場形成が背景にあったか。